

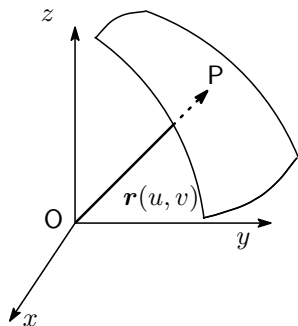
本日よりこと

- 曲面と面積分

ベクトル解析

曲面と面積分

曲面のパラメータ表示



$\vec{r}(u, v)$: 連続な 2 変数ベクトル値関数
 D : 定義域

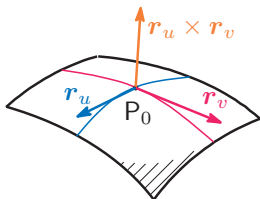
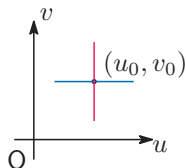
$$\vec{OP} = \vec{r}(u, v) \quad (u, v) \in D \cdots (\star)$$

\Rightarrow 点 P の軌跡は連続な曲面.

ベクトル解析

曲面と面積分

接ベクトル



u 曲線 : 変数 u のみを動かしたときの点 P の軌跡

v 曲線 : 変数 v のみを動かしたときの点 P の軌跡

$\overrightarrow{OP_0} = \vec{r}(u_0, v_0)$ とするとき, $\vec{r}_u(u_0, v_0)$, $\vec{r}_v(u_0, v_0)$ が存在して $\vec{0}$ でないならば

$\vec{r}_u(u_0, v_0)$ は u 曲線の点 P_0 における接ベクトル

$\vec{r}_v(u_0, v_0)$ は v 曲線の点 P_0 における接ベクトル

ベクトル解析

曲面と面積分

接平面・法ベクトル

$\vec{r}_u(u_0, v_0)$, $\vec{r}_v(u_0, v_0)$ が存在して 1 次独立ならば, 点 P_0 における接平面の方向ベクトルとなる。

$$\vec{r}_u(u_0, v_0) \times \vec{r}_v(u_0, v_0)$$

は接平面に垂直であるが, これと同方向のベクトルを S の点 P_0 における法ベクトルという。

以後の約束

以後, 曲面は

$$S : \overrightarrow{OP} = \vec{r}(u, v) \quad (u, v) \in D \cdots (\star)$$

$\vec{r}(u, v)$ は連続, 偏微分可能, $\{\vec{r}_u, \vec{r}_v\}$ は 1 次独立

によりパラメータ表示されるものとする。

ベクトル解析

曲面と面積分

曲面積・面積要素

D が面積確定な有界閉領域のとき,

$$S \text{ の面積} = \iint_D |\vec{r}_u \times \vec{r}_v| dudv$$

と定める.

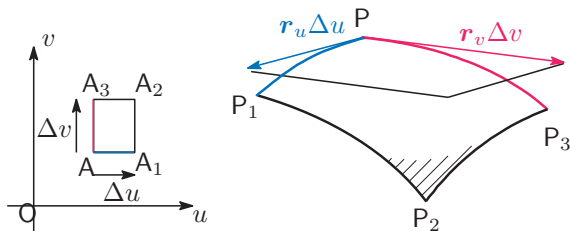
$$dS = |\vec{r}_u \times \vec{r}_v| dudv$$

を**面積要素**と呼ぶ.

ベクトル解析

曲面と面積分

[考え方] u, v が小さい長方形領域 $AA_1A_2A_3$ を動くとき, 対応する曲面の小部分 $PP_1P_2P_3$ の面積 ΔS は



$$\begin{aligned}\overrightarrow{PP_1} &= \vec{r}(u + \Delta u, v) - \vec{r}(u, v) \doteq \vec{r}_u(u, v)\Delta u, \\ \overrightarrow{PP_3} &= \vec{r}(u, v + \Delta v) - \vec{r}(u, v) \doteq \vec{r}_v(u, v)\Delta v\end{aligned}$$

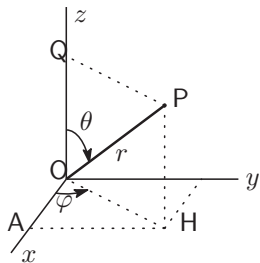
$$\Delta S \doteq |\vec{r}_u(u, v)\Delta u \times \vec{r}_v(u, v)\Delta v| = |\vec{r}_u(u, v) \times \vec{r}_v(u, v)|\Delta u\Delta v$$

のように近似されるから.

ベクトル解析

曲面と面積分

空間の極座標



$$P(x, y, z), H(x, y, 0), A(x, 0, 0), Q(0, 0, z)$$

$$OP = r, \quad \angle QOP = \theta, \quad \angle AOH = \varphi$$

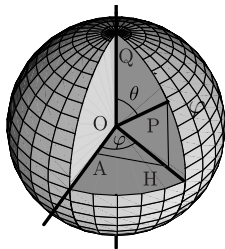
$$\Rightarrow \begin{cases} x = r \sin \theta \cos \varphi, \\ y = r \sin \theta \sin \varphi, \\ z = r \cos \theta, \end{cases}$$

$r = a$ (一定) とすると P は球面を描くので

ベクトル解析

曲面と面積分

球面・球面座標



原点中心, 半径 a の球面 S は

$$\overrightarrow{OP} = (a \sin \theta \cos \varphi, a \sin \theta \sin \varphi, a \cos \theta)$$

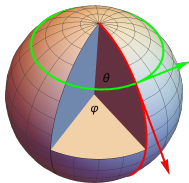
これを $\vec{r}(\theta, \varphi)$ とおく

$$(0 \leq \theta \leq \pi, 0 \leq \varphi \leq 2\pi)$$

によりパラメータ表示される。これを球面座標表示という。

ベクトル解析

曲面と面積分



$$\mathbf{r}_\theta = (a \cos \theta \cos \varphi, a \cos \theta \sin \varphi, -a \sin \theta)$$

θ 曲線の接ベクトルで南向き. 大きさは a .

$$\mathbf{r}_\varphi = (-a \sin \theta \sin \varphi, a \sin \theta \cos \varphi, 0)$$

φ 曲線の接ベクトルで東向き, 大きさは $a \sin \theta$.

$$\mathbf{r}_\theta \times \mathbf{r}_\varphi$$

$$= a \sin \theta (a \sin \theta \cos \varphi, a \sin \theta \sin \varphi, a \cos \theta)$$

$$= a \sin \theta \mathbf{r}(\theta, \varphi)$$

ベクトル解析

曲面と面積分

スカラー場の面積分

平面領域上の2重積分の考え方を曲面の上に拡張したもの。
スカラー場 $P \mapsto f(P)$ の曲面 S 上の面積分を

$$\iint_S f(P) dS = \lim \sum_{k=1}^n f(P_k) \Delta S_k$$

で定める。ただし、

ΔS_k ($k = 1, \dots, n$) : S を分割した小曲面 (およびその面積),

$P_k \in \Delta S_k$,

lim は分割を細かくする極限

S が平面領域の時は2重積分, $f(P) \equiv 1$ のときは S の曲面積になる。

ベクトル解析

曲面と面積分

パラメータ表示された曲面上のスカラー場の面積分

曲面 S が

$$S : \overrightarrow{OP} = \vec{r}(u, v) \quad (u, v) \in D$$

のようにパラメータ表示されている場合は

$$\iint_S f \, dS = \iint_D f(\vec{r}(u, v)) |\vec{r}_u \times \vec{r}_v| \, dudv$$

$\{\Delta D_k\}$: D の長方形分割, $\{\Delta S_k\}$: 対応する S の分割, $\overrightarrow{OP}_k = \vec{r}(u_k, v_k)$ とすると

$$\Delta S_k \doteq |\vec{r}_u(u_k, v_k) \times \vec{r}_v(u_k, v_k)| m(D_k)$$

$$\text{左辺} = \lim \sum_{k=1}^n f(P_k) |\vec{r}_u(u_k, v_k) \times \vec{r}_v(u_k, v_k)| m(D_k) = \text{右辺}$$

となるからである.

ベクトル解析

曲面と面積分

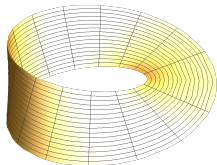
曲面の向き付け

曲面に裏表を付けることを**曲面の向き付け**という。

S の各点 P に表方向の単位法線ベクトル $\vec{n}(P)$ を対応させ、**正の向き**の**単位法線ベクトル**とよぶ。

$\vec{n}(P)$ が S の全域で連続に定義できるとき、曲線は**向き付け可能である**という。各点 P で $\vec{r}_u \times \vec{r}_v$ と \vec{n} が同じ向きとなるようなパラメータ (u, v) を**正の向きのパラメータ**と呼ぶ。

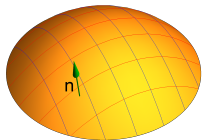
今後は、曲面はすべて向き付けられているものとし、パラメータはすべて正の向きのものとする。



ベクトル解析

曲面と面積分

ベクトル場の面積分の定義



S : 向き付けられた局面

\vec{n} : 正の単位法ベクトル

$\vec{A}(P)$: ベクトル場

に対して \vec{A} の S 上面積分を

$$\iint_S \vec{A} \cdot \vec{n} \, dS = \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n \vec{A}(P_k) \cdot \vec{n}(P_k) \Delta S_k$$

で定める.

$\Delta S_k, P_k, \lim$: スカラー場の面積分の場合と同じ

スカラー場 $\vec{A} \cdot \vec{n}$ の面積分ということもできる。

ベクトル解析

曲面と面積分

パラメータ表示された曲面上のベクトル場の面積分

曲面 S が 正の向きのパラメータによって

$$S : \overrightarrow{OP} = \vec{r}(u, v) \quad (u, v) \in D$$

のようにパラメータ表示されている場合は

$$\iint_S \vec{A} \bullet \vec{n} \, dS = \iint_D \vec{A} \bullet (\vec{r}_u \times \vec{r}_v) \, dudv$$

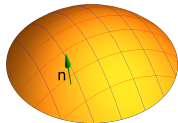
$$\vec{n} = \frac{\vec{r}_u \times \vec{r}_v}{|\vec{r}_u \times \vec{r}_v|}, \quad dS = |\vec{r}_u \times \vec{r}_v| \, dudv$$

と表されるからあきらかである。

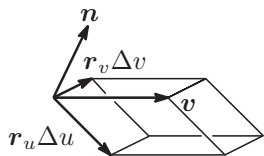
ベクトル解析

曲面と面積分

曲面を横切る流量

 \vec{v} を流体の速度ベクトル とするとき

$$F = \iint_S \vec{v} \cdot \vec{n} \, dS$$

は単位時間に S を横切ってわき出す流体の総量

$$S : \overrightarrow{OP} = \vec{r}(u, v) \quad ((u, v) \in D)$$

とすると S の微小部分は $\vec{r}_u du$, $\vec{r}_v dv$ で張られる平行四辺形で近似されるから、この部分を単位時間に横切る流体の総量は

$$\Delta V = \vec{v} \cdot \vec{n} = \vec{v} \cdot (\vec{r}_u \times \vec{r}_v) \, dudv$$

ベクトル解析

曲面と面積分

[例:クーロン場の球面積分]

原点中心半径 a の球面 S を外向きに向き付ける.

$\mathbf{r} = (x, y, z)$, $r = |\mathbf{r}| = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2}$ とおく.

ベクトル場 \mathbf{A} を $\mathbf{A}(x, y, z) = \frac{\mathbf{r}}{r^3}$ で定める.

$\frac{\mathbf{r}}{r} = \mathbf{n}$ だから

$$\iint_S \mathbf{A} \cdot \mathbf{n} dS = \iint_S \frac{1}{r^2} \mathbf{n} \cdot \mathbf{n} dS = \frac{1}{a^2} \iint_S dS = \frac{1}{a^2} 4\pi a^2 = 4\pi$$

a によらないということが大事。